

## 音楽科学習指導案

### 77期生オリジナル合唱曲より演奏表現を探究する

#### ～歌で奏でる145人の平和の願い～

授業者 附属池田中学校 山部 智可

#### 1. 対象 附属池田中学校第3学年B組(36人)

#### 2. 題材目標

・知識及び技能に関して

「77期生オリジナル合唱曲」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。

・思考力、判断力、表現力等に関して

「77期生オリジナル合唱曲」のテクスチャ・強弱・速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「77期生オリジナル合唱曲」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。

・学びに向かう力、人間性等に関して

「77期生オリジナル合唱曲」の歌詞が表す平和の願いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組むとともに合唱曲に親しむ。

本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年[A表現](1)歌唱及び[共通事項](1)

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

[共通事項](1)

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

テクスチャ

#### 3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

① 選択項目：寛容な人

② 学習との関連

「77期生オリジナル合唱曲」にふさわしい歌唱表現を創意工夫するにあたり協働学習を通じて他者の意見や考えに対して共感の姿勢で接し他者の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方を尊重し多様性を受け入れ相互理解を進めることで自身の感性に磨きをかけ音楽表現を豊かにすることと関連づけている。

### ③目標達成するために付けるべき力

- i)自身の考えを相手に伝える力
- ii)他者の意見や考えを聴く力
- iii)他者の意見や考えを受け入れる力
- iv)各声部の声を聴きながら他者と合わせて歌う力
- v)1つの事象に対して多角的な視点を持つ力

### ④評価規準の設定

- i)自身の考えを要約して相手に的確に伝えている
- ii)他者の意見や考えに耳を傾け聴こうとしている
- iii)他者の意見や考えに共感し受け入れようとしている
- iv)自分以外のパートの音を意識し合わせて歌おうとしている
- v)複数の意見を受け入れ相互理解をし、最もふさわしい考えを生み出そうとしている

## (2)教材観

本題材のねらいは、演奏表現の創意工夫を通して時代や世代、国を超えて人間に内在されている思いや意図を聴き手に効果的に伝えることをねらいとしている。音楽科が第3学年で設定している重要概念は「コミュニケーション」であり、学びの実感を積み重ねるために表現領域・鑑賞領域の両面により音楽を1つの媒体とした人間に与える影響力と演奏者における発信力について探究を続けている。本題材は、1年間の集大成の取り組みと位置付けている。

本題材は、本校の国際バカロレア校の取り組みの1つである IDU(学際的な単元)の一連の流れの中で行うものである。第3学年の IDU の取り組みのテーマは「平和」であり、連携する教科は、社会・英語・音楽の3教科で進めていく。最終的なゴールとしては、平和への願いを発信するために、平和の願いを込めた歌を作詞・作曲し学校行事を通じて発信することである。各教科の役割として、社会科の授業では、歴史的背景から平和について学び、英語科の授業では、世界共通語の英語で歌詞の作り方を学ぶ。音楽科の授業では、サビのメロディーの創作と完成した合唱曲の演奏表現について学ぶ。本題材は、完成した合唱曲の演奏表現を探究することに焦点を当てているが、この合唱曲が完成するまでの取り組みの過程と今後の展開を述べたいと思う。

平和をより具体的にイメージするために修学旅行の取り組みと関連づける試み 教科:社会・総合

本校の修学旅行先が長崎ということもあり、事前学習として、平和学習を3時間行った。平和学習の構成としては、下記に示した通りである。

実施内容	時数
8月9日、長崎に投下された原子爆弾についてと核兵器の実態について	1時間
DVD鑑賞(NHKアーカイブス) 自らも被爆しながら放射線医学の研究をし続けた永井隆博士のドキュメント「長崎の鐘は鳴り続ける」	1時間
平和宣言について/平和宣言で使いたいキーワードのピックアップ/千羽鶴作成	1時間

本校は、国際枠で入学する生徒たちも多数いるため「平和」に対する捉え方も様々である。生徒同士が平和に対して多角的な視点から見ることによって、多様性が育まれると同時に「平和とは何か?」「自分が大人になった

時、世界がどうなっていたら平和だと思うのか?」「平和な世界に近づくために日々の生活の中で、あなた自身が心がけていきたいことは、どのようなことなのか」ということを1人の人間として改めて考えるきっかけになったと考えている。

また、修学旅行で平和セレモニーを実施するにあたり学年の代表者と共に学年からピックアップされた平和宣言で使いたいキーワードを基に平和宣言を作成した。(資料1)平和について、いかに自分事として捉えることができるのか、実際、修学旅行先の長崎市平和公園・長崎原爆資料館で自身が目にしたもの体感したものを軸に今後のIDUの取り組みに活かしてほしいと考えている。

さらに、修学旅行後には、社会の時間に「平和の定義」について学び、生徒一人ひとりが考案する時間を設けた。

実感したこと・体感したことを音楽に活かす試み 教科:音楽

●歌唱指導 歌「花の街」 作詞:江間 章子 作曲:團 伊玖磨

この曲は終戦後に作られた曲である。作詞・作曲者の背景にあるものとしては、戦後、何もかも失った喪失感と同時に近い将来、日本が輝かしい再建を果たし子ども達の未来が明るいものになることを願ってこの曲が作られた。授業の中で焦点を当てた部分は、歌詞で示すと「輪になって 輪になって 駆けて行ったよ 春よ春よと 駆けて行ったよ」という部分である。(楽譜1)この曲の曲想から言うと、一番盛り上がりを感じる部分である。ところが、盛り上がった状態で曲が終わるのではなく、「春よ春よ」の歌詞の部分に演奏記号の mp が楽譜に記されている。作曲者はなぜ、ここに mp の演奏記号をつけたのか?どのような思いや意図をこの演奏記号にこめたのかということを生徒に考えさせた。また、自身が考えたことを実際、演奏表現するために、どのような歌い方の工夫をしたらよいのかということを実演を通して考えさせた。生徒にとっては、音楽を形作っている要素や要素同士の関わりを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるきっかけになったと考えられる。

(楽譜1)

① *mf* cre - - - scen - - - do

わになつて わになつて

かけていったよ 春よ春よと 駆けて行ったよ

はるよと かげて いったよ

はるよと かげて いったよ

(生徒が書いたワークシートの一例)

①の部分	
歌詞にこめられた作詞者の思い	戦争により、ばらばらになった人たちが、またつながりを持つ(輪を作る)という意味の作詞で、かけていたよ、おどっていたよ、春の夕暮れの部分では、人と輪を作ったあとにしたいこと、希望を表そうとしたのではないかと思います。 戦争中の希望です
旋律の動き	だんだん大きくなるとともに、音も高くなって、全体的に大きくなっていく
作者の思いや意図	先ほど考えた人との輪をどんどん大きく、人とのつながりを広げていくことを伝えるために、だんだん大きくしていったのではないかと思います。しかし、一番最後がデクレッシェンドになっているのは、最後の部分は戦争じの回想ぶぶんにも繋がる部分があると思ったので、小さくしたんだと思います。
どのように演奏表現したいと考えているか	声量や音階とともに少し抽象的な表現になってしまうんですが、自分の歌うスケール(周りがどんどん広がっていくようなイメージに聞こえる歌い方)を大きくしていくような歌い方をしたいと思いました。
②の部分	
歌詞にこめられた作詞者の思い	最後の、一人寂しく泣いていたよの部分は、作詞者が戦争時の苦しみを表したものと述べているため、戦争中の回想シーンとなります。そのためこの部分は上の2つも戦争部分の回想につながるシーンだと考えました。また、上の2つは、先ほど戦争中の希望を持っていると考えた部分でも出てきていますが、今回は弱くなっていきます。そのため戦争で叶わないという残酷さを表現したいのではないかと思います。 幻想と現実の同じ言葉だけと置かれている状況が全く違う現実に戻ってくることを表現
旋律の動き	さきほどに上げに上げた音の高さと歌う強さの強さを音の高さもだんだん低くなり、音の強さもmpを使うなど小さくなっていく
作者の思いや意図	盛り上げた音をいきなり小さく、低くすることで、今までさんざん希望が膨らんでいたのが一気にしぼむ切ない感じを表現するために、このような旋律の動きにしたのではないかと思います。また、最後のまよへ一回だけクレッシェンドが入ってすぐにデクレッシェンドで打ち消されています。これはすべて状態を表すと言ったような内容の歌詞になっていて、今回の歌詞において、今までの様な状態なのかは曲のなかで進むストーリーとともに深く関わるためとても大事な要素となっています。なので、その論じていたり、かけていたり、泣いていたり、という部分を引き立たせるために一度クレッシェンドを入れたのではないかと思います。
どのように演奏表現したいと考えているか	はるよはるよと、の部分はどちらかどつぶやくような感じで歌い、最後の部分は音の波を意識しながらうたいたい

●創作活動 77期生オリジナル合唱曲のサビの作成

修学旅行の取り組み、歌「花の街」の取り組みを通して自分自身が考える「平和」とは何か?そして、自身が考える「平和の願い」を形にするためにメロディーを作成する授業を行った。メロディーを作成するために必要な知識としては、リズムの作り方、法則に基づいた旋律の作り方、和声に基づいた音と音の組み合わせ方、といった部分が必要となる。用いた教材は、教科書「中学生の音楽1」My Melody(教育芸術社)/教科書「中学生の音楽2・3下」My Melody(教育芸術社)である。これらのことを学んだ上で、聴き手に伝えたい平和の願いをイメージし、旋律の動きにどのような工夫を加えたら、より思いや意図が伝わるのか生徒に試行錯誤させた。生徒にとっては、1つのまとまりのある旋律を生み出すために音楽を形作っている要素や要素同士の関わりを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて演奏表現を創意工夫するきっかけになったと考えられる。

(生徒が作った一例)

あなたの思う平和とは...

平和とは暴力や戦争がない状態であるだけでなく、人々が協調して助け合いながら生きていくことができる社会のこと。また平和はみんなが頑張るって作る特別なものではなく、一人一人が相手のことを思いやり大切にしたりする気持ちから自然と生れるものだと思う。そのため、平和を実現することは一人一人の考え方を変えなければならないということにもなるので、非常に難しいものである。しかし、一人一人が自分の行動や価値観を見直し、他者への理解を深めることによって平和への道は近づいてくる。互いのことをよく知ることや一人一人の平和を大事にする行動が大切である。また、長崎の平和宣言でもあった通り他人事として考えるのではなく、常に自分事として考えて、絶えず平和にするための努力をしていかなければならないものだと思う。

平和の定義との関連 楽曲の工夫について 自分の思いや意図を述べなさい

リズムを工夫した点

5、6小節目を順次進行で持ち上がるようにしたり、二分音符にして演奏するときにはリタラダドをつかったりなどをする事によって、たつぷり聞かせることができ、盛り上がっているということを感じさせるようにした。また、全体的に16分音符や8分音符が連続することをせずに、のびのびとした雰囲気になるようにし、肩が背空を優雅に跳んでいるような平和を象徴するようにした。4小節目と6小節目の最後のはず部分を入れることによってよりおたやかでゆったりしている曲だと聞き手に思わせるようにしようとした。

旋律を工夫した点

この曲はbobの二部形式でつくってあり、後半より盛り上がるようにした。具体的には、5小節目から8小節目にかけてだんだん上げていこうとして、盛り上がるだけではなく、平和を強調させることができるようにした。また前半は低い音の連続であったのに対し、5小節目からクレッシェンドをしていき後半でだんだん高くしていったことによりより強調させることができるようにした。また「リズム」の部分でも思い通り、平和の象徴である鳩が空を優雅に飛んでいる姿をイメージして作り、「さらに優雅に飛んでいく」ということを示した。加えて6小節目にリタラダドして、ミの音をつたつぷり聞かせてプレスを入れ7小節目に入るようにした。また、8小節目の最後ので一回下がってもう一回上がる事によって平和が近づいていっているような感じにした。

このサビに込めた自分自身の思い

このサビに込めた自分自身の思いは、今の戦争が起きている社会から、社会全体が協力しあい平和をつかってほしいということである。初めは下のほうの音で平坦だったのに対し、後ろのほうになるにつれだんだんと高くすることによって、この願いをより分りやすくあらわせるようにした。具体的には前半の平坦な状態によって今の現状、つまり平和にならうと努力しているがいまだに戦争が続いている状態、をあらわした。そして後半の盛り上がる部分で、世界がだんだんと平和に向かって進み始めてほしいという願いが聞き手に届くようにした。また、全体的に穏やかなメロディーにすることによって上記にも書いたとおり、「肩が背空を優雅に跳んでいる」という世界全体が目指すべき平和をほめめかすようにした。

ソプラノ

グランドピアノ

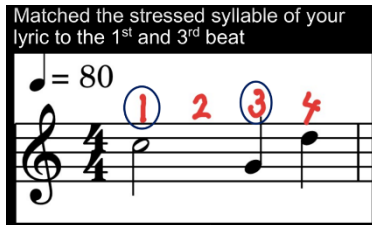
♩ = 80

5

rit.

**実感したこと・体感したことを歌詞に活かす試み 教科:英語**

音楽科で作成した曲に合う歌詞を考える授業を行った。具体的には、まず教科書の教材にもなっている映画音楽に関して、その音楽が映画に与える影響を分析する授業を行い、また自分の好きな映画音楽についての映画のワンシーンと音楽との関連性についてのブログを書いた。この中で、音楽の要素(リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・形式・構成・音色)を英語でどのように表現するのかを前述の「花の街」の英語版分析を挟むことで知識として身に着けるようにした。その後、音楽科で作成した曲にサビと A メロ B メロを英語で歌詞を書いた。その際には、英語の詩の修辞法である、反復法・比喩(隠喩・直喩等)・脚韻・頭韻や、音節を1音にはめ込むこと等を学習した。



場所・風景	<ul style="list-style-type: none"> <li>flower garden</li> <li>Sunrise</li> <li>Sunset</li> </ul>
出来事	<ul style="list-style-type: none"> <li>All people of world recognize each other.</li> </ul>
色・香り・	<ul style="list-style-type: none"> <li>good smell of flowers</li> <li>There are many color of several flowers</li> <li>yellow, red, blue, orange</li> </ul>
気持ち(比喩を使って)	<ul style="list-style-type: none"> <li>What a great development peace is!</li> <li>Peace makes us happy.</li> <li>It's like a dream.</li> <li>It's like a heaven.</li> </ul>



そして、上記青のシンキングツールを使いながら、リズムや音程に合うように実際の楽譜に当てはめていった。左は、生徒が実際に楽譜に書いた歌詞の一部である。生徒は、音の上がり下がりや4分の4拍子のビートの強弱などを考えながら、歌詞をあてはめていった。1音に1音節を当てはめるのに苦労している生徒が多く、アドバイスをしたり、辞書で音節を確認

させたりしながら試行錯誤をして書き直しをした。

これをまとめたのが、左のシートである。工夫した点の部分を抜き出すと、「単語の選び方については、「自由の鳥」や「平和の光」といった表現を用いることによって、歌詞が抽象的な概念を具体的なビジュアルでとらえやすくした。また、Step forward などのようなポジティブな表現を使うことで、希望や前向きな気持ちが伝わるようにした。技法については、Let's move on というフレーズを繰り返すことで、歌詞にリズム感を与え、反復することで歌詞に力強さと覚えやすさを加えた。聴衆を鼓舞するような歌詞にした。」と書いている。このように、語彙選択においては詩的にビジュアルを創造できるような工夫をし、技法面では、歌詞ならではの技法を使うことができていた。

**Aメロ (4行)**

Fly like the freedom bird  
Wings embrace world  
Light of peace  
Wrap around the world.

**Bメロ (4行)**

Let's move forward let's move forward  
Aim for brighter world  
Step forward cherish each day  
Now, let's move on

**工夫した点 (単語・技法・コミュニケーション)**

**単語の選び方**  
「自由の鳥」や「平和の光」といった表現を用いることによって、歌詞が抽象的な概念(自由や平和)を具体的なビジュアルで捉えやすくした。また、「Step forward」「cherish each day」のようないままでの表現ではなかったような表現が用いられるようになった。

**技法**  
反復法: 「Let's move forward」「Aim for brighter world」「Now, let's move on」というフレーズを繰り返すことで、歌詞にリズム感を与え、メッセージを強調した。覚悟をすることで、歌詞に力強さと覚えやすさを加えた。

**表現**  
「Fly like the freedom bird」「Wings embrace world」というフレーズを用いることで、抽象的な概念や感情を具象的でわかりやすいイメージで表現した。

**コミュニケーション**  
あまり馴染みのない単語に慣れやすくするように工夫した。また、「Step forward」「Let's move forward」という呼びかけを用いることで、聴衆を鼓舞するような歌詞にした。

**客観的に音楽を聴き平和について考える試み 教科:総合**

サビの旋律・歌詞が出来あがった段階で、クラス鑑賞会を行った。クラス全員の平和の願いがこもったサビを聴き、平和の曲を作るにあたり最もふさわしいサビを投票で1つ選んだ。さらに英語の時間に選ばれたサビに歌詞をつけ、クラスでサビの練習を行い、学年で各クラスのサビを発表する発表会を開いた。同じ学年の生徒たちがどのような音楽を作っているのか客観的に聴くことで自分自身への刺激となったり自分自身の引き出しが増えることで、今後、音楽との向き合い方の参考になるきっかけになったと考えられる。

このような過程を経て、最終的に学年から平和を表現するサビとして最もふさわしいメロディーが1つ選出され、作曲に関心がある生徒たちによってサビ以外の曲の部分が作られ合唱曲が完成した。



作曲家が生きた時代背景における音楽の役割と音楽を媒体として後世に残したメッセージについて考える試み

教科:音楽

今後の授業において、連作交響詩「ブルタバ」の鑑賞の授業を通して、作曲家のスメタナが生きた時代背景とスメタナの作曲人生に音楽がどのような影響力を与えたのか音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを中心に授業を展開したいと考えている。また、時代を超えてスメタナが残した功績と後世にどのような影響力を与えたのか考察する予定をしている。

本題材では、ここまで作った土台を基に、77期生オリジナル合唱曲をどのように演奏表現の創意工夫をすることで平和に関する思いや意図を音楽を通じて聴き手に伝えることができるのかというところに焦点を絞りたいと考えている。音楽科で育成を目指す資質・能力として「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定されている。また、資質・能力の育成に当たっては、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習活動に取り組めるようにする必要がある。音楽科における「音楽の見方・考え方」とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」であると考えられる。音楽的な見方・考え方を働かせるために次の3点を授業展開に加えて実践することとする。

(1) 知覚と感受の場の設定

音や音楽を知覚・感受する場を適切に設定する

(2) 思考を促すワークシートや授業中の発問の工夫

音楽を形づくっている要素と要素同士の関わりを感じ取るために、知覚・感受したことを思考の流れに沿って記述したり、生徒の姿をよく見取り適切に投げかけたりする

(3) 対話的な学びの設定

音楽的な学びを支えにしながら他者との対話を通して自らの考えを深めたり広げたりするために生徒同士で関わり合う場を設定する

今回の学習における「音楽的な見方・考え方」を働かせて育つ資質・能力を

ア 合唱における音と音との重なり・強弱や速度変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、聴き手に平和のメッセージを伝えるために楽譜に記されている演奏記号だけでなく、表現方法を楽譜に言葉で追記したり演奏記号を付け加えたりしながら自身の思いや意図を伝えようとする力

イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解し、自身がこの曲に込める思いや意図について考える力

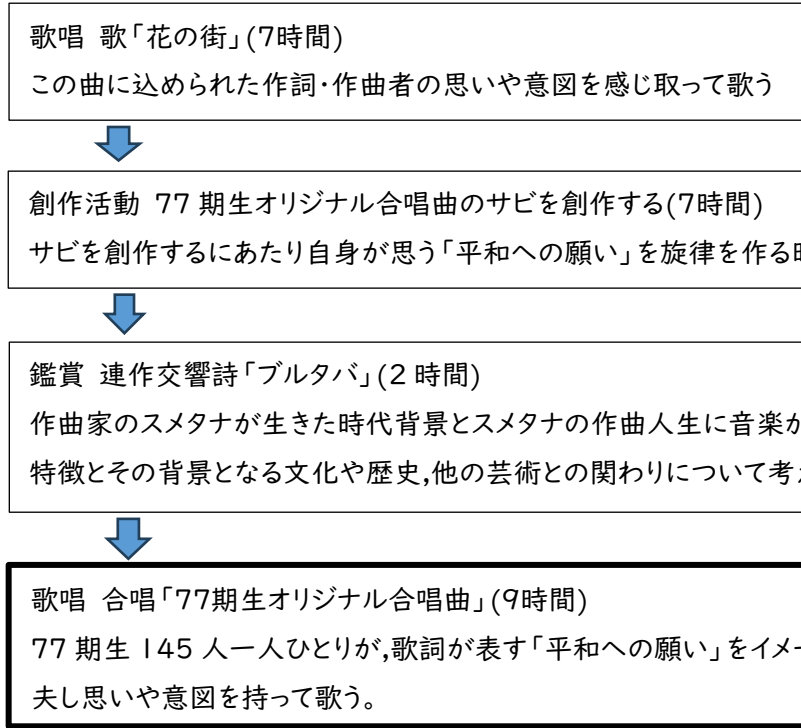
演奏表現を創意工夫し全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けようとする力

ウ 自他の演奏や意見を客観的に捉え分析することにより多角的な物の見方、考え方を受け入れる力

と捉えている。

また、協働学習の取り組みを通して、他者の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方を尊重し受け入れると同時に自分自身の内面と向き合い、自身の感性に磨きをかけられるような指導を心掛けたと考えている。そして、本題材を通して生徒が音楽をコミュニケーションツールの1つとして人々や社会に何を発信することができるのか、音楽が社会に与える影響力や音楽の存在価値について探究し続けてほしいと考えている。

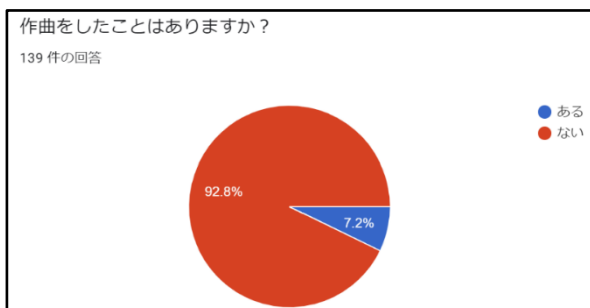
## 題材構想(25時間)



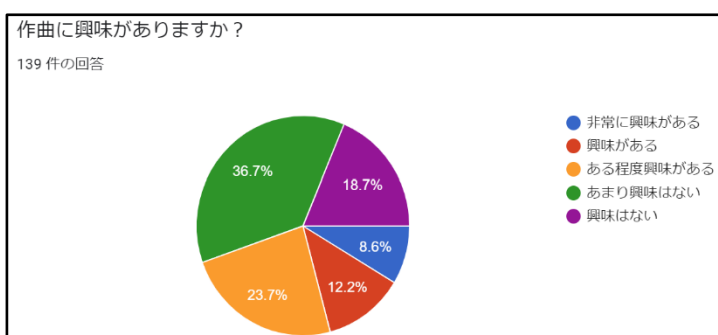
学びの連続性を意識し,1つの題材が単体で終了するのではなく,点と点が線となって最終ゴールへ向かっていく授業展開を1年間を通して考えていきたいと思う。そして,生徒にとって,この題材を学ぶ意味や意義を実感できるような授業を目指したいと考えている。

### (3) 生徒観

第3学年の生徒たちは,自ら何かを創意工夫することに対して意欲的な生徒が多い。今回,IDUの取り組みを行うにあたり,作曲についてアンケートを行った。作曲経験がある生徒は,全体の7.2%で多くの生徒は作曲すること自体が初めての経験であることが分かった。さらに作曲をすることに興味があるか5段階の選択から聞いたところ,非常に興味がある,興味がある,ある程度興味があると答えた生徒は,44.5%で,あまり興味はない,興味はないと答えた生徒は55.5%という結果になった。このデータから生徒の心情を推測すると曲を作るということにハードルの高さや何か難しいことをするのだろうかなど捉えているのではないかと考えらえる。



ある 7.2%  
ない 92.8%

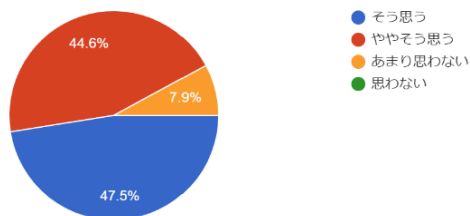


非常に興味がある 8.6%  
興味がある 12.2%  
ある程度興味がある 23.7%  
あまり興味はない 36.7%  
興味はない 18.7%

また、第3学年の生徒は全体的に音楽の授業の中で行っている協働学習においては、自分の意見を明確に意思表示すると共に他者の意見に対しても耳を傾け前向きに受け入れようとする姿勢がみられる。しかし、第3学年の最初の授業で行ったアンケート結果(4段階から選択)からは、他者の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方があることを理解し尊重し受け入れていることに肯定的に答えた生徒が94.3%で、あまり思わないと答えた生徒が5.7%という結果だった。また、それらを自分自身の創意工夫や捉え方、感じ方を深めているという部分において肯定的に答えた生徒が84.2%で、あまり思わないと答えた生徒が15.1%という結果だった。このようなアンケート結果から、他者の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方から自分の工夫や捉え方、感じ方を深める部分に課題があることがわかった。これを受けて、本題材の中で、77期生オリジナル合唱曲を自分自身がどのように演奏表現したいのか対話的な取り組みの中から自身の思いや意図を明確にし総括課題のプレゼンテーションにおいて自身の考えを発揮する場面を設定した。

④多様な音楽表現の創意工夫や、音楽の捉え方、感じ方があることを理解している。

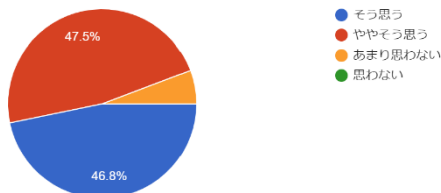
139件の回答



そう思う	47.5%
ややそう思う	44.6%
あまり思わない	7.9%
思わない	0%

⑤他者(主として友達)の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方を尊重し受け入れている。

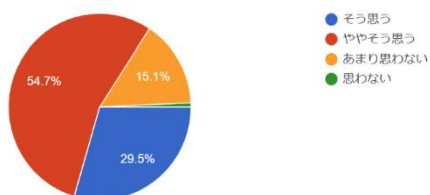
139件の回答



そう思う	46.8%
ややそう思う	47.5%
あまり思わない	5.7%
思わない	0%

⑥他者(主として友達)の多様な音楽表現の創意工夫や音楽の捉え方、感じ方から自分の工夫や捉え方、感じ方を深めている。

139件の回答



そう思う	29.5%
ややそう思う	54.7%
あまり思わない	15.1%
思わない	0.7%



#### (4) 指導観

##### GRASPS

##### (G)Goal 目的

77 期生オリジナル合唱曲に込めた自分自身の思いや意図を演奏表現やプレゼンテーションを通して聴き手に伝えることである

##### (R)Role 役割

アーティスト

##### (A)Audience 対象

音楽出版社の人々

##### (S)Situation 状況

77 期生オリジナル合唱曲を音楽出版社の人々にアピールしている状況

##### (P)Product 成果物

合唱曲の楽譜/合唱曲の音源/プレゼンテーションで使うスライド

##### (S)Standard 評価基準

・プレゼンテーションで使うスライド(A ii ,B ii ,D i ,D ii )

A ii :77 期生オリジナル合唱曲における曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて詳しく述べる

B ii :曲にふさわしい演奏表現を創意工夫するために音楽を形作っている要素と芸術的意図を明確に提示し説明する

D i :この曲の最大の魅力を分析する

D ii :自身が考える音楽を媒体として聴き手に与える影響力について分析する

本題材のゴールは、77 期生オリジナル合唱曲に込めた平和のメッセージをどのように演奏表現を工夫したら聴き手に伝わるのか、スライドを作成し自分の思いや意図をプレゼンテーションすることとしている。合唱曲は1つだが、145 人の思いは十人十色であり、その思いが1つの音楽表現の形となって表現されることに芸術のよさがあると考えている。生徒には、145 人一人ひとりの作品として捉えてほしいため、あくまでも個人作業を中心に授業を進めるが、協働学習を取り入れることで自他の演奏表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めることで自身の演奏表現の幅を広げるきっかけを作りたいと考えている。また、協働学習の中で出た思いや意図を実際に歌唱表現を繰り返し行い、思い描いている音楽表現が出来ているのか、また、音楽を客観的に聴いた時に、どのように聴き手は捉えているのか、その相互作用を繰り返しながら、粘り強く音と向き合い演奏表現を模索していきたい。また、拡大楽譜を準備し生徒から出た意見を楽譜に書き込んでいき可視化することによって意見の整理をすると共に曲の全体像を把握し曲にふさわしい表現方法を考え納得のいく演奏表現を探究する場を設定したい。合唱楽譜([資料2](#)) 歌詞カード([資料3](#)) 合唱音源([資料4](#))

#### 4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(知)「77 期生オリジナル合唱曲」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p>(技)創意工夫を生かした表現で全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p>	<p>(思)「77 期生オリジナル合唱曲」の合唱におけるテクスチャ・強弱・速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>(態)「77 期生オリジナル合唱曲」の歌詞が表す平和の思いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。</p>

#### 5. 題材の指導計画(全 10 時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	<p>楽曲分析</p> <p>各パート音取り</p>	<p>「77 期生オリジナル合唱曲」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。</p> <p>合唱における音と音との重なり・強弱や速度変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している</p> <p>創意工夫を生かした表現で全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につけている。</p>	●	●	●	<p><u>態度</u></p> <p>観察</p> <p><u>知識</u></p> <p>ワークシート1</p> <p><u>技能</u></p> <p>演奏</p> <p><u>思考</u></p> <p>プロセスジャーナル</p>
2	<p>楽譜に記された演奏記号を基に曲にふさわしい歌唱表現を考える。</p> <p>(個人活動)</p> <p>↓</p> <p>(班活動)</p>	<p>歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>主体的・協働的に歌唱の学習に取り組む自他の演奏表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めている。</p>	●	●	●	<p><u>態度</u></p> <p>観察</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>演奏</p> <p><u>思考</u></p> <p>ワークシート2</p> <p>プロセスジャーナル</p>
3	<p>楽譜にまだ記されていない演奏記号や言葉による表現方</p>	<p>歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するかにつ</p>	●	●	●	<p><u>態度</u></p> <p>観察</p> <p><u>知識・技能</u></p>

	法を付け加えてサビをより印象付けるための歌唱表現を考える。 (個人)→(班活動)	いて思いや意図をもっている。  主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み自他の歌唱表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めている。				演奏 <u>思考</u> ワークシート2 プロセスジャーナル
4 本時	中間発表 前時,班で考えた「サビをより印象付ける歌唱表現」が,より効果的に聴き手に伝わるように他の班の歌唱表現を参考にして考える。 (班活動)→(一斉)	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら,曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するのかについて思いや意図をもっている。  主体的・協働的に歌唱の学習に取り組み自他の歌唱表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し,多様性を受け入れ相互理解を進めている。	●	●	●	<u>態度</u> <u>観察</u> <u>知識・技能</u> <u>演奏</u> <u>思考</u> ワークシート2 プロセスジャーナル
5	最終発表 各班が考えた歌唱表現をクラスで鑑賞・実演しクラスとしての歌唱表現を考える。アンケートを実施して確定する。 (班活動)→(一斉)	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら,曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するのかについて思いや意図をもっている。		●	●	<u>態度</u> <u>観察</u> <u>思考</u> プロセスジャーナル
6	演奏表現の確定 各クラスが考えた歌唱表現を実演しアンケートを実施して確定する	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら,曲にふさわしい歌唱表現としてどのように演奏するのかについて思いや意図をもっている。		●	●	<u>態度</u> <u>観察</u> <u>思考</u> プロセスジャーナル
7~8	振り返り 総括的評価課題作成 スライドの作成	「77 期生オリジナル合唱曲」に込められた平和のメッセージをどのように演奏表現を工夫したら聴き手に伝わるのか,自分の思いや意図をもち主体的に取り組んでいる。	●	●	●	<u>態度</u> <u>知識</u> <u>思考</u> 総括的課題 ワークシート3
9~10	発表 総括的評価課題 プレゼンテーション	「77 期生オリジナル合唱曲」に込められた平和のメッセージをどのように演奏表現を工夫したら聴き手に伝わるのか,自分の思いや意図をもち主体的に発信している。	○	○	○	<u>態度</u> <u>知識</u> <u>思考</u> 総括的課題

●・・・形成的評価(指導に活かす評価)      ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

## 6. 本時の展開

### (1) 本時の目標

1. 「77 期生オリジナル合唱曲」にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。(思考・判断・表現)
2. 主体的・協働的に自他の歌唱表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めること。(主体的に学習に取り組む態度)

### (2) 本時の評価規準

#### 思考・判断・表現

「77 期生オリジナル合唱曲」にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

#### 態度

主体的・協働的に自他の歌唱表現や意見を客観的に分析し共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めている。

### (3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ループリックとの関連

①項目: 寛容な人

②内容: 他者の意見や考えに対して共感の姿勢で接し、多様性を受け入れ相互理解を進めることができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
<p>導入 10分</p>	<p>●前時の学習内容の確認 各班で考えた「サビをより印象付けるための歌唱表現」を意識しながら歌う。</p> <p>●本時のめあての確認 他の班の歌唱表現を参考にして、各班、前回、考えた「サビをより印象付ける歌唱表現」が、より効果的に聴き手に伝わるように創意工夫することを確認する。</p>	<p>この曲に込めた平和の願いを再確認させる。この曲の最大の聴かせどころがサビであることを再確認させる。前回、発表した班の「サビを印象付けるための歌唱表現」を参考に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現したいこと</li> <li>・歌い方の工夫</li> <li>・2つのパートの役割</li> </ul> <p>を意識しながら歌うように指示する。</p> <p>前回の授業で各班が発表した時に自分の班で参考にしたいと考えた班の歌唱表現を参考にするように指示する。</p>	
<p>探究テーマ: 芸術的表現による芸術的意図(人間の本質と人間の尊厳)はコミュニケーションを媒体として受け手に効果的な影響を与えることがある</p>			
<p>ATL スキル: 思考—批判的思考スキル 批判的思考スキルを使用して、コミュニケーションとしての音楽の要素を根拠を持って特定させる</p>			
<p>今日のめあて: 他の班の歌唱表現を参考にして、各班、前回、考えた「サビをより印象付ける歌唱表現」が、より効果的に聴き手に伝わるように創意工夫する。</p>			



展 開  3 5 分	<p>●歌唱表現の工夫</p> <p>参考にしたい班の歌唱表現を実演し「サビをより印象付けるための歌唱表現」が聴き手により効果的に伝わるようにどのように工夫したらよいか考え、実演していく。</p>	<p>意見交流だけでなく、必ず実演しながら歌唱表現を考えるように声掛けする。</p> <p>班の考えがまとまったらホワイトボードと拡大楽譜に書いていくように指示する。</p>	<p><u>思考</u></p> <p>ワークシート2</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>演奏</p>
	<p>ホワイトボードに書く内容</p> <p>●工夫しようと思った点</p> <p>●工夫しようと思った理由</p>	<p>拡大楽譜に書くこと</p> <p>工夫しようと思った点が楽譜で示すとどの部分になるのか、どのように歌唱表現しようと考えているのか書く。</p>	
	<p>●クラス全体で共有</p> <p>いくつかの班にクラスにとって参考になると考えられる班の歌唱表現を紹介し実演する。</p> <p>●実演</p> <p>発表した班の歌唱表現をクラス全員で実演する</p>	<p>(演奏者)</p> <p>・前回の歌唱表現をベースにし「工夫しようと思った点」「工夫しようと思った理由」を中心に発表させる。</p> <p>・自分達が考えた歌唱表現を意識させる。</p> <p>(聴き手)</p> <p>演奏を聴いて「どのように感じたのか」意見や感想を述べさせる。</p> <p>発表した班の歌唱表現を意識しながら歌うように声かけする。</p>	<p><u>態度</u></p> <p>観察</p>
ま と め 5 分	<p>●プロセスジャーナルを記入する。</p>	<p>今日の授業の中で「新たな発見があったこと」「なるほど!!と思ったこと」「共感したこと」の中から1つ選び記入するよう指示する。</p>	<p><u>思考</u></p> <p>プロセスジャーナル</p>

## (5)準備物

・合唱冊子 ,合唱音源,chrome book, CD デッキ

## 7. 参考文献

・中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編 平成 29 年 7 月 文部科学省

・「指導と評価の一体化」のために学習評価に関する参考資料 中学校音楽

令和 2 年 3 月 文部科学省 国立教育政策研究所

・中等教育プログラム MYP:原則から実践へ

・中等教育プログラム(MYP)「芸術」指導の手引き

・音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究

<https://kawasaki-edu.jp/index.cfm/7,146,c,html/146/32-133-138.pdf>

## 8. 資料

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 <b>新たな試みの視点</b> などから <b>目標</b> を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く、創造的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから <b>目標</b> を持ち、その達成に向けて <b>自主的に粘り強く</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 <b>試みの視点</b> などから <b>目標</b> を持ち、その達成に向けて <b>自主的に</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから <b>目標</b> を持ち、その達成に向けて <b>進んで</b> 取り組むことができる。
つなぐ力のある人	これまでの経験や知識を関連づけて <b>創造的に</b> 物事を考え、 <b>周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>地域社会の人たちとの協働を構想・実践</b> することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 <b>学校の人たちと協力して</b> 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 <b>学級の人たちと力を合わせて</b> 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティや世界の出来事</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら、創造的に</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身近なコミュニティ</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返りながら</b> 追究することができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 <b>振り返り</b> することができる。	自らの問題として、 <b>身の回り</b> の課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して <b>共感と傾聴</b> の姿勢で接し、 <b>多様性を尊重</b> しながら <b>相互理解</b> を深めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感</b> の姿勢で接し、 <b>多様性を受け入れ相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接し、 <b>相互理解</b> を進めることができる。	他者の意見や考えに対して <b>共感の姿勢</b> で接することができる。